

令和3年度科学研究費助成事業「新学術領域研究（研究領域提案型）」に係る事後評価結果

領域番号	3802	領域略称名	スクラップビルド
研究領域名	スクラップ&ビルドによる脳機能の動的制御		
領域代表者名 (所属等)	榎本 和生 東京大学・大学院理学系研究科（理学部）・教授		

(評価結果)

A (研究領域の設定目的に照らして、期待どおりの成果があった)

(評価結果の所見)

本研究領域は、神経系に着目して、神経回路の形成と機能再編を、スクラップ&ビルド現象が精緻に組織化された事例として捉え、その分子実態及び機能的意義を体系的に明らかにすることを目的とした。本研究領域は、コンパートメント構築、ネットワーク制御、及び高次機構と疾患の3つの階層で構成され、国内トップレベルの研究者が計画研究代表者として参画して個別の研究を推進するだけでなく、計画研究によって構築された独自の実験システムを共通の解析基盤とする共同研究が積極的に展開された。その結果、数多くの成果を上げており、領域目的に照らして、期待どおりの成果があったと評価される。特に、神経回路のスクラップ&ビルドに関する優れた研究成果が相乗的に生まれ、中でも発達脳におけるスクラップ&ビルドの特殊原理を解明したことは高く評価される。今後は、領域内外との共同研究によって得られた画期的な成果を論文発表するとともに、スクラップ&ビルドの共通原理の解明に向けた研究を発展させることによって、脳の老化現象の解明研究につなげるだけでなく、神経系以外の研究領域へも展開することが期待される。